

高等学校段階で共通して育成すべき資質・能力 <論点整理(抄)>

- 高等学校は、中学校卒業後の約98%の者が進学し、社会で生きていくために必要となる力を共通して身に付ける、初等中等教育最後の教育機関である。また、その教育を通じて、一人一人の生徒の路に応じた多様な可能性を伸ばし、その後の高等教育機関等や社会での活動へと接続させていくことが期待されている。
- こうした役割と責任を果たすことができるよう、昨年12月に取りまとめられた中央教育審議会答申「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について」等を踏まえ、一人一人の生徒が、義務教育を基盤として、①十分な知識・技能と、②それらを基盤にして答えのない問題に自ら答えを見いだしていく思考力・判断力・表現力等と、③これらの基になる主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度とを身に付けていくことができるよう、高大接続改革の全体像を見据えながら、高等学校教育の改革を実現していくことが求められている。その具体的な教育課程の在り方等については、下記に示すように「共通性の確保」と「多様化への対応」の観点を中心として検討する必要がある。
- 社会で生きていくために必要となる力を共通して身に付ける「共通性の確保」の観点からは、昨年6月に中央教育審議会初等中等教育分科会高等学校教育部会が取りまとめた「コア」についての整理を踏まえつつ、全ての生徒が共通に身に付けるべき資質・能力を、三つの柱に沿って明確化し、それらを育む必修教科・科目等の改善を図るとともに、教科・科目等間の関係性を可視化していくことが必要である。

各教科等の学校段階別の教育のイメージ（たたき台案）（高等学校・共通教科 抜粋）

※現在各教科等 WG で検討中の案を抜粋したもの

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
<p>(国語科)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生涯にわたる社会生活や専門的な学習に必要な国語の特質（仮）について理解し適切に使うことができるようにする。 <p>(地理歴史科)</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本及び世界の歴史の展開と生活・文化の地域的特色に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 <p>(公民科)</p> <ul style="list-style-type: none"> 選択・判断の手掛かりとなる概念や理論、及び倫理、政治、経済等に関わる諸課題に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 	<p>(国語科)</p> <ul style="list-style-type: none"> 創造的・論理的思考や感性・情緒を働かせて思考力や想像力を伸ばし、社会や他者との関わりの中で、国語で効果的に表現したり的確に理解したりするとともに、実社会の視点から、新たな考えを創造する力を高めるようにする。 <p>(地理歴史科)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地理や歴史に関わる諸事象について、概念等を活用して多面的・多角的に考察したり、構想したりする力、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養うようにする。 <p>(公民科)</p> <ul style="list-style-type: none"> 現代の諸課題について、概念等を活用して多面的・多角的に考察したり、構想したりする力、合意形成を視野に入れながら構想したことを議論する力を養うようにする。 	<p>(国語科)</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉を通じて伝え合う意義を認識するとともに、言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその向上を図るようにする。 <p>(地理歴史科)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地理や歴史に関わる事象について課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深めるようにする。 <p>(公民科)</p> <ul style="list-style-type: none"> 人間と社会の在り方に関わる課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される人間としての在り方生き方についての自覚、自国を愛しその平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し各国民が協力し合うことの大切さについての自覚を深めるようにする。

(数学科)

- ・ 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり表現したりするための知識・技能を身に付ける。

(理科)

- ・ 概念や原理・法則の体系的な理解と科学的探究についての理解や、探究のために必要な観察・実験等の基本的な技能を養う。

(保健体育科)

<体育>

- ・ 運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な知識及び生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するための科学的知識を身に付けるとともに、運動の合理的・計画的な実践を通して、運動の特性に応じた技能を身に付ける。

<保健>

- ・ 個人及び社会生活における健康・安全に関する知識や技能を身に付ける。

(芸術科)

<音楽>

- ・ 音楽の文化的・歴史的背景や構造と、曲想との関わり及び音楽の多様性について理解することや、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けることができるようにする。

(数学科)

- ・ 事象を数学を活用して論理的に考察する力、思考の過程を振り返って本質を明らかにし統合的・発展的に考察する力や、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。

(理科)

- ・ 目的意識をもって観察・実験し、科学的に探究したり、科学的な根拠をもとに表現したりする力を養う。

(保健体育科)

<体育>

- ・ 生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動の取り組み方や健康の保持及び体力を高めるための運動の計画を工夫できる思考力・判断力・表現力を育てる。

<保健>

- ・ 個人及び社会生活に関わる健康課題を発見し、課題解決を目指して情報を収集、分析、活用したり、適切に意思決定、行動選択及び社会環境づくりをしたりするなどの思考力・判断力・表現力を育てる。

(芸術科)

<音楽>

- ・ 音楽の特徴を捉え、音楽表現を創意工夫して表現意図を創造できるようにすることや、幅広く音楽のよさや美しさを味わい、音楽の意味や価値を創造することができるようにする。

(数学科)

- ・ 数学のよさを認識し、数学を活用して粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断したり、問題解決の過程を振り返って評価・改善したりする態度を養う。

(理科)

- ・ 自然に対する畏敬の念を持ち、科学の必要性や有用性を認識するとともに、科学的根拠に基づき、多面的・総合的に判断する態度を養う。

(保健体育科)

<体育>

- ・ 生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育むとともに、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。

<保健>

- ・ 健康を優先し、健康の保持増進や回復及び健康な社会づくりに参画し、健康で豊かな活力ある生活を営む態度を育てる。

(芸術科)

<音楽>

- ・ 音楽活動の喜びを味わい、我が国及び諸外国の様々な音楽と幅広く関わり、音や音楽を生活や社会に生かそうとして、生涯にわたり音楽を愛好する心情をもてるようにする。

<美術>

- ・ 造形要素の働きについて、創造活動を通じた造形的な視点として理解することや、発想や構想したことを基に、意図に応じて表現方法を工夫して表す創造的な技能を身に付けることができるようにする。

<工芸>

- ・ 造形要素の働きについて、創造活動を通じた造形的な視点として理解することや、発想や構想したことを基に、意図に応じて吟味し創意工夫して制作する創造的な技能を身に付けることができるようにする。

<書道>

- ・ 書の表現方法や形式、書表現の多様性などについて理解することや、意図に基づいた創造的な表現を構想し工夫して表すために、書の伝統に基づく効果的な書表現の技能を身に付けることができるようにする。

(外国語科)

- ・ 外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解し、外国語の音声、語彙・表現、文法を、4技能（聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと）において実際のコミュニケーションの場面で運用できる技能を身に付ける。

(家庭科)

- ・ 生活を科学的に理解し、自立した生活者に必要な知識・技能を習得する。

<美術>

- ・ 主題を生成したり創造的に構想したりすることや、美術作品などの表現の工夫を捉えたり、美術文化を伝統的かつ創造的側面から幅広く捉えたりして、そのよさや美しさを感じ取り味わうなど、創造的に思考・判断できるようにする。

<工芸>

- ・ 心豊かに発想や構想することや、工芸作品などの表現の工夫を捉えたり、工芸の伝統と文化を創造的側面から幅広く捉えたりして、そのよさや美しさを感じ取り味わうなど、創造的に思考・判断できるようにする。

<書道>

- ・ 書のよさや美しさを感じ、自らの意図に基づいて構想し表現を工夫することや、書表現を創造的に味わったり、書の効用や作品の価値を考えたりして、書に対する見方や考え方を広げることができるようにする。

(外国語科)

- ・ 場面・目的・状況等に応じて、幅広い話題について、情報や考えなどの概要・詳細・意図を的確に理解したり適切に表現し伝え合ったりするコミュニケーション能力を養う。

(家庭科)

- ・ 生活の課題を解決するために、生活を科学的に探究し、生涯を見通して生活を創造する能力を育成する。

<美術>

- ・ 主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組み、美術の創造活動の喜びを味わい、生活や社会の中の美術の働きや美術文化と幅広く関わり、生涯にわたり美術を愛好する心情をもてるようにする。

<工芸>

- ・ 主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組み、工芸の創造活動の喜びを味わい、生活や社会の中の工芸の働きや工芸の伝統と文化と幅広く関わり、生涯にわたり工芸を愛好する心情をもてるようにする。

<書道>

- ・ 書の創造的活動の喜びを味わい、表現と鑑賞の幅広い活動に主体的に取り組むとともに、文字や書の効用を生活や社会の中で生かし、書の伝統と文化に豊かに関わり、生涯にわたり書を愛好する心情をもてるようにする。

(外国語科)

- ・ 外国語の学習を通じて、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、自律的・主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。

(家庭科)

- ・ 様々な年代の人とコミュニケーションを図り、主体的に地域社会に参画し、共に支え合う社会の実現に向けて家庭や地域の生活を創造しようとする実践的な態度を育成する。

(情報科)

- ・ 情報と情報技術及びこれらを活用して問題を発見・解決するための方法と情報社会についての理解と、情報技術を適切に活用するための技能を養う。

(総合的な学習の時間)

- ・ 課題を探究することを通じて、課題（学習対象）に関する概念的知識を獲得したり、よりよい課題解決のために必要な知識や技能を身に付け、探究の意義や価値を理解する。

(情報科)

- ・ 問題の発見・解決に向けて情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。

(総合的な学習の時間)

- ・ 実社会や実生活の中から問いを見だし、探究的な見方や考え方をを用いて、自分で課題を立て、情報を集め、整理分析してまとめ、表現することができるようにする。

(情報科)

- ・ 情報を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与しようとする態度を養う。

(総合的な学習の時間)

- ・ 実社会や実生活の中から積極的に問いを見出し、主体的・協同的（協働的）に問題の解決に取り組み、学習したことを自己の在り方生き方に生かし、主体的に新たな価値の創造やよりよい社会の実現に努めさらに高次の課題に取り組もうとする態度を育てる。

国語教育のイメージ（4月20日版）

平成28年4月20日
教育課程部会
国語ワーキンググループ
資料4（会議後修正）

高等学校基礎学力テスト
（仮称）

改善の
ための
PDCA
サイクル

【高等学校】

◎国語で表現し理解することを通じて、言葉の働きを捉えるとともに、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、自分の思いや考えを形成し深める資質・能力を育成する。

- ①生涯にわたる社会生活や専門的な学習に必要な国語の特質（仮）について理解し適切に使うことができるようにする。
- ②創造的・論理的思考や感性・情緒を働かせて思考力や想像力を伸ばし、社会や他者との関わりの中で、国語で効果的に表現したり的確に理解したりするとともに、実社会の視点から、新たな考えを創造する力を高めるようにする。
- ③言葉を通じて伝え合う意義を認識するとともに、言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその向上を図るようにする。

【中学校】

◎国語で表現し理解することを通じて、言葉の働きを捉えるとともに、言語感覚を豊かにし、自分の思いや考えを形成し深める資質・能力を育成する。

- ①社会生活に必要な国語の特質（仮）について理解し適切に使うことができるようにする。
- ②創造的・論理的思考や感性・情緒を働かせて思考力や想像力を養い、社会との関わりの中で、国語で適切に表現したり正確に理解したりするとともに、新たな考えを創造する力を高めるようにする。
- ③言葉を通じて伝え合う価値を認識するとともに、言語文化に関わり、国語を尊重するようにする。

【小学校】

◎国語で表現し理解することを通じて、言葉の働きを捉えるとともに、言語感覚を養い、自分の思いや考えを形成し深める資質・能力を育成する。

- ①日常生活に必要な国語の特質（仮）について理解し使うことができるようにする。
- ②創造的・論理的思考や感性・情緒を働かせて思考力や想像力を養い、人と人との関わりの中で、国語で適切に表現したり正確に理解したりするとともに、新たな考えを創造する力を高めるようにする。
- ③言葉を通じて伝え合うよさを味わうとともに、言葉の大切さを自覚し、国語を尊重するようにする。

【幼児教育】

（教育課程部会幼児教育部会において、本ワーキンググループでの議論を踏まえ、幼児期に育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の明確化について審議）

- ・身近な事象に好奇心や探究心を持って思いを巡らしながら積極的に関わり、物の性質や仕組み等に気付いたり、予想したり、工夫したりなどして多様な関わりを楽しむようになるとともに、友達と考えを思い合わせるなどして、新しい考えを生み出す喜びを感じながら、よりよいものにするようになる。
- ・生活や遊びの中で、数量などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、必要感に応じてこれらを活用するようになる。
- ・言葉を通して先生や友達と心を通わせ、絵本や物語などを親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付けるとともに、言葉による表現を楽しむようになる。

全国学力・学習状況調査

改善の
ための
PDCA
サイクル

社会，地理歴史，公民における教育のイメージ（たたき台）

平成28年4月27日
教育課程部会社会・地理歴史・公民
ワーキンググループ 資料9

【高等学校】

地理歴史科

- ◇広い視野に立って、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を養うために、社会的な見方や考え方を培い、以下の三つの資質・能力を育成する。
- 日本及び世界の歴史の展開と生活・文化の地域的特色に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- 地理や歴史に関わる諸事象について、概念等を活用して多面的・多角的に考察したり、構想したりする力、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養うようにする。
- 地理や歴史に関わる事象について課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深めるようにする。

公民科

- ◇広い視野に立って、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を養うために、社会的な見方や考え方を培い、以下の三つの資質・能力を育成する。
- 選択・判断の手掛かりとなる概念や理論、及び倫理、政治、経済等に関わる諸課題に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- 現代の諸課題について、概念等を活用して多面的・多角的に考察したり、構想したりする力、合意形成を視野に入れながら構想したことを議論する力を養うようにする。
- 人間と社会の在り方に関わる課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される人間としての在り方生き方についての自覚、自国を愛しその平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し各国民が協力し合うことの大切さについての自覚を深めるようにする。

【中学校】社会科

- ◇広い視野に立って、グローバル化する国際社会に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者を目指す公民的な資質・能力を養うために、社会的な見方や考え方を培い、以下の三つの資質・能力を育成する。
- 我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題について構想したりする力、考察・構想したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養うようにする。
- 社会的事象について、課題を意欲的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深めるようにする。
- 主体的に社会の形成に参画しようとして、資料から読み取った情報を基にして社会的事象について考察し表現したりするなどの課題解決的な学習の充実を図る。
- ◎地理的分野では、地理的技能の育成を一層重視するとともに、持続可能な社会づくりの観点から様々な課題を考察させ、歴史的分野では、グローバル化に対応する観点から世界の歴史の扱いを充実させ、公民的分野については、社会参画への手掛かりを得させるために身に付けた概念を現実の社会的事象と関連付けて理解させる指導の充実を図る。

【小学校】社会科(第3～6学年)

- ◇グローバル化する国際社会に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者を目指す公民的な資質・能力を養うために、社会的事象の見方や考え方を培い、以下の三つの資質・能力を育成する。
- 地域や我が国の地理的環境、社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化、それらと人々の生活との関連について理解するとともに、調査や諸資料から情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- 社会的事象の特色や意味などについて多角的に考える力、社会への関わり方を選択・判断する力、思考・判断したことを表現する力を養うようにする。
- 社会的事象について、課題を意欲的に解決しようとする態度を養うとともに、多角的な考察や理解を通して涵養される地域社会に対する誇りと愛情、我が国の国土や歴史に対する愛情、地域社会の一員としての自覚、世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さの自覚を養うようにする。
- 社会的事象から学習問題を見出し、問題解決の見通しをもって他者と協働的に追究し、追究結果を振り返るなど、問題解決的な学習の充実を図る。
- ◎世界の国々との関わりや我が国の政治の働きへの関心を高める学習、社会に見られる課題を把握して、社会の発展を考える学習の充実を図る。災害における地方公共団体の働き、地域の人々の工夫や努力、地理的・歴史的観点を踏まえた災害に関する理解、防災情報に基づく適切な行動の在り方等に関する指導の充実を図る。

【小学校】生活科(第1, 2学年)

- 自分と身近な人々及び地域の様々な場所、公共物などとの関わりに関心をもち、地域のよさに気付き、愛着を持つことができるようにするとともに、集団や社会の一員として自分の役割や行動の仕方について考え、安全で適切な行動ができるようにする。
- 身近な人々、社会及び自然との関わりを深めることを通して、自分のよさや可能性に気付き、意欲と自信をもって生活することができるようにする。
- 身近な人々、社会及び自然に関する活動の楽しさを味わうとともに、それらを通して気付いたことや楽しかったことなどについて、言葉、絵、動作、劇化などの方法により表現し、考えることができるようにする。

幼児教育

- よいことや悪いことが分かり、相手の立場に立って行動するようになり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、決まりの大切さが分かり守るようになる。
- 情報を伝え合ったり、情報に基づき思い合わせたりするようになるとともに、公共の施設を大切にしたり、国旗や国際理解への意識等が芽生えるようになる。
- 身近な事象に好奇心や探究心を持って思いを巡らしながら積極的に関わり、物の性質や仕組み等に気付いたり、予想したり、工夫したりなどして多様な関わりを楽しむようになる。

【高等学校】

- ◎ 事象を数学化し、論理的に考察し、本質を明らかにするなどの数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成する。
- ① 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり表現したりするための知識・技能を身に付ける。
- ② 事象を数学を活用して論理的に考察する力、思考の過程を振り返って本質を明らかにし統合的・発展的に考察する力や、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
- ③ 数学のよさを認識し、数学を活用して粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断したり、問題解決の過程を振り返って評価・改善したりする態度を養う。
- それぞれの内容を生活と関連付けたり、生徒の疑問を取り上げたりするなど生徒の数学学習に対する関心や意欲を高める。
- 学習の過程を振り返り、本質を明らかにしたり学習内容を整理し直したりして、自ら見いだした問題を解決する活動を充実する。

【中学校】

- ◎ 事象を数学化し、論理的に考察するなどの数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成する。
- ① 数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則を理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり表現したりするための知識・技能を身に付ける。
- ② 事象を数学を活用して論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察する力や、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
- ③ 数学のよさを実感し、数学を生活や学習に活用して考えたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善したりする態度を養う。
- 問題解決に必要な情報を生徒自らが集めたり選択したりする活動や、帰納的に考えることなどから自ら決まりを見付ける活動、見いだした決まりを既習の内容を生かして演繹的に説明する活動を充実する。
- 既習の内容を振り返って関連を図ったり、新たに学んだ内容を用いると、どのようなことができるようになったのかなどについて明らかにしたりする活動を充実する。

【小学校】

- ◎ 算数の学習を生活や学習に活用するなどの数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成する。
- ① 数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解するとともに、日常の事象を数理的に処理するための知識・技能を身に付ける。
- ② 日常の事象を数理的にとらえ見通しをもち筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見だし統合的・発展的に考察する力や、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり柔軟に表したりする力を養う。
- ③ 数学のよさに気づき、算数の学習を生活や学習に活用したり、学習を振り返ってよりよく問題解決したりする態度を養う。
- 事象を数理的に考察したり、自分の考えを数学的に表現し処理したり、振り返ったりする学習活動を充実する。
- 具体物、図、数、式、表やグラフ相互の関連を図り、問題解決する学習活動を充実する。

【幼児教育】(教育課程部会幼児教育部会において、本ワーキンググループでの議論を踏まえ、幼児期に育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の明確化について審議)

- 生活や遊びの中で、数量などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、必要感に応じてこれらを活用するようになる。



理科教育のイメージ (20160420案)

平成28年4月26日
教育課程部会
理科ワーキンググループ

資料7-1

【高等学校】

◀発展: explore science▶ (Especially Science for Interested students: 世界をリードする人材として)

- 科学的課題に徹底的に向き合い、考え抜いて行動する態度を養う。科学的な探究能力を活用して、専門的な知識と技能の深化・統合化を図るとともに、自発的・創造的な力を養う。
- 科学的な探究能力の育成を主体的に図ることができる「課題研究」を充実させる。 (理数科, 理数探究(仮称))

◀応用: advanced science▶ (Science for Interested students: 科学技術立国としての日本を支える人材として)

- 自然の事物・現象について、科学的に探究する能力と態度を養うとともに、論理的な思考力や創造性の基礎を養う。
- 「観察・実験」や「探究活動」を一層充実させて、科学的な探究能力の育成を図る。また、日常生活や他教科(数学, 情報, 保健体育, 地理など)との関連を図る。

◀基礎: basic science▶ (Science for All students: 善良な市民として)

- ◎ 自然の事物・現象について、問題を明確にして課題を設定し、根拠に基づく結論を導き出す過程を通して、意思決定を行うことができる力を育てるとともに、科学的な見方や考え方を養う。
- ①概念や原理・法則の体系的な理解と科学的探究についての理解や、探究のために必要な観察・実験等の基本的な技能を養う。
- ②目的意識をもって観察・実験し、科学的に探究したり、科学的な根拠をもとに表現したりする力を養う。
- ③自然に対する畏敬の念を持ち、科学の必要性や有用性を認識するとともに、科学的根拠に基づき、多面的・総合的に判断する態度を養う。
- 中学校で身に付けた資質・能力を活用して、科学的な探究のプロセスを体験させる「観察・実験」や「探究活動」を充実させる。また、日常生活や他教科(数学, 情報, 保健体育, 地理など)との関連を図る。

【中学校】

- ◎ 自然の事物・現象について、問題を明確にして課題を設定し、根拠に基づく結論を導き出す過程を通して、科学的な見方や考え方を養う。
- ①概念や原理・法則の基本的な理解や観察・実験等の基本的な技能を養う。
- ②目的意識をもって観察・実験し、得られた結果を分析・解釈する力を養う。
- ③自然を敬い、自然の事物・事象にすすんでかかわり、科学的に探究する態度と根拠に基づき判断し表現する態度を養う。
- 小学校で身に付けた、比較、分類、関係付け、条件制御などの資質・能力をさらに高め、自然事象の把握、問題の設定、予想・仮説の設定、検証計画の立案、観察・実験の実施、結果の処理、考察・推論、表現等の学習活動を充実する。また、日常生活や他教科との関連を図る。
例えば、1年: 自然の事物・事象に進んでかかわり、その中から問題を見いだす。2年: 解決方法を立案して実行し、結果の妥当性を検討する。3年: 探究の過程を振り返り、その妥当性を検討する。

【小学校】

- ◎ 自然の事物・現象について、問題を見いだし、より妥当な考えを導き出す過程を通して、科学的な見方や考え方を養う。
- ①自然の事物・現象についての理解を図り、観察・実験等の基本的な技能を養う。
- ②見通しをもつて的確に観察、実験などを行い、問題解決の能力を養う。
- ③自然を大切に、生命を尊重する態度、科学的に探究する態度、妥当性を検討する態度を養う。
- 観察・実験の結果を整理し考察し表現する学習活動を充実する。また、日常生活や他教科との関連を図る。
- 問題解決の能力、例えば、3年: 差異点や共通点に見付き問題を見いだす力、4年: 既習事項や生活経験を基に根拠のある予想や仮説を発想する力、5年: 質的变化や量的変化、時間的变化に着目して解決の方法を発想する力、6年: 要因や規則性、関係を多面的に分析して考察し、より妥当な考えをつくりだす力を育成する学習活動を充実する。
- 目的を設定し、計測して制御するという考え方の学習活動を充実する。

(小学校低学年)

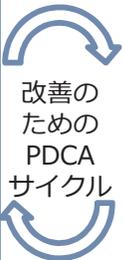
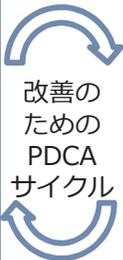
例えば、【生活科】

- 自然とのかかわりに関心をもち、自然を大切にしたり、その不思議さに気付いたりすることができる。
- 身近な自然を観察したり、季節や地域の行事にかかわる活動を行ったりなどして、四季の変化や季節によって生活の様子が変わることに関心し、自分たちの生活を工夫したり楽しんだりできる。
- 身近にある自然を利用したり、身近にある物を使ったりなどして、遊びや遊びに使う物を工夫してつくり、その面白さや自然の不思議さに気付く、みんなで遊びを楽しむことができるようにする。
- 動物を飼ったり植物を育てたりして、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもち、また、それらは生命をもっていることや成長していることに気付く、生きものへの親しみをもち、大切にすることができるようにする。

【幼稚園】(教育課程部会幼児教育部会において、本部会での議論を踏まえ、幼児期に育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の明確化について審議)

- ・身近な事象に好奇心や探究心を持って思いを巡らしながら積極的に関わり、物の性質や仕組み等に気付いたり、予想したり、工夫したりなどして多様な関わりを楽しむようになるとともに、友達と考えを思い合わせるなどして、新しい考えを生み出す喜びを感じながら、よりよいものにするようになる。
- ・自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、身近な事象への関心が高まりつつ、自然への愛情や畏敬の念を持つようになる。
- ・身近な動植物を命あるものとして、いたわり大切に感じる気持ちを持つようになる。

高等学校基礎学力テスト(仮称)



全国学力・学習状況調査

健やかな体の育成に関する教育のイメージ（検討素案）

体育科・保健体育科（体育）

平成28年4月28日
教育課程部会
体育・保健体育、健康、安全WG
資料4

発達の段階

指定校事業での検証、全国体力・運動能力、運動習慣等調査等



卒業後に少なくとも一つの運動やスポーツを継続する

多くの領域の学習を経験する

各種の運動の基礎を培う

【高等学校】

☆**体育の見方や考え方を踏まえ、豊かなスポーツライフの実現を目指して、課題を発見し、その解決を図る主体的・協働的な学習活動を通して、次の資質・能力を育成する。**

- ①運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な知識及び生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するための科学的知識を身に付けるとともに、運動の合理的・計画的な実践を通して、運動の特性に応じた技能を身に付ける。
- ②生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動の取り組み方や健康の保持及び体力を高めるための運動の計画を工夫し、根拠を示したり相手に配慮したりして他者に伝えることができる力を育てる。
- ③生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。

【中学校】

☆**体育の見方や考え方を踏まえ、豊かなスポーツライフの実現を目指して、課題を発見し、その解決を図る主体的・協働的な学習活動を通して、次の資質・能力を育成する。**

- ①運動の合理的な実践に関する具体的な知識及び生涯にわたって運動に親しむための科学的な知識を身に付けるとともに、運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じた基本的な技能を身に付ける。
- ②生涯にわたって運動に親しむことを目指して、自己の課題に応じた運動の取り組み方や健康の保持及び体力を高めるための運動の組み合わせ方を工夫し、根拠を示して他者に伝えることができる力を育てる。
- ③生涯にわたって運動に親しみ、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。

【小学校】

☆**体育の見方や考え方を踏まえ、豊かなスポーツライフの実現を目指して、課題を発見し、その解決を図る主体的・協働的な学習活動を通して、次の資質・能力を育成する。**

- ①各種の運動が有する特性や魅力に応じた知識や技能を身に付ける。
- ②自己の能力に適した課題をもち、活動を選んだり工夫したり、他者に伝えたりすることができる力を育てる。
- ③運動の楽しさや喜びを味わい、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。

【幼児教育】

（教育課程部会幼児教育部会において、本部会での議論を踏まえ、幼児期に育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の明確化について審議）

- 体を動かす様々な活動に目標をもって挑戦したり、困難なことにつまずいても気持ちを切り替えて乗り越えようとしていたりして、主体的に取り組む。
- いろいろな遊びの場面に応じて、体の諸部位を十分に動かす。
- 健康な生活リズムを通して、自分の健康に対する関心や安全についての構えを身に付け、自分の体を大切にしたい気持ちを持つ。

健やかな体の育成に関する教育のイメージ（検討素案）

体育科・保健体育科（保健）

発達の段階

指定校事業での検証、全国体力・運動能力、運動習慣等調査



改善のためのPDCAサイクル

個人及び社会生活の健康についてより総合的に理解する

【高等学校】

☆保健の見方や考え方を踏まえ、心身の健康の保持増進や回復、共生を目指し、健康課題を発見し、その解決を図る学習活動を通して、次の資質・能力を育成する。

- ①個人及び社会生活における健康・安全に関する知識や技能を身に付ける。
- ②個人及び社会生活に関わる健康課題を発見し、課題解決を目指して情報を収集、分析、活用したり、適切に意思決定、行動選択したりする力を育てる。
- ③健康を優先し、健康の保持増進や回復及び健康な社会づくりに参画し、健康で豊かな活力ある生活を営む態度を育てる。



改善のためのPDCAサイクル

個人の健康についてより科学的に理解する

【中学校】

☆保健の見方や考え方を踏まえ、心身の健康の保持増進や回復、共生を目指し、健康課題を発見し、その解決を図る学習活動を通して、次の資質・能力を育成する。

- ①個人生活における健康・安全に関する知識や技能を身に付ける。
- ②健康課題を把握し、課題解決を目指して適切な情報を選択、活用し、意思決定をする力を育てる。
- ③自他の健康の大切さを認識し、健康の保持増進や回復に主体的に取り組み、健康で豊かな生活を営む態度を育てる。



改善のためのPDCAサイクル

身近な生活の健康について理解する

【小学校】

☆保健の見方や考え方を踏まえ、心身の健康の保持増進や回復、共生を目指し、健康課題を発見し、その解決を図る学習活動を通して、次の資質・能力を育成する。

- ①身近な生活における健康・安全についての基礎的な知識や技能を身に付ける。
- ②身近な健康課題に気付き、健康を保持増進するために情報を活用し、課題解決する力を育てる。
- ③健康の大切さを認識し、自己の健康の保持増進や回復に主体的に取り組み、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。

【幼児教育】

（教育課程部会幼児教育部会において、本部会での議論を踏まえ、幼児期に育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の明確化について審議）

- 体を動かす様々な活動に目標をもって挑戦したり、困難なことにつまずいても気持ちを切り替えて乗り越えようとしていたりして、主体的に取り組む。
- いろいろな遊びの場面に応じて、体の諸部位を十分に動かす。
- 健康な生活リズムを通して、自分の健康に対する関心や安全についての構えを身に付け、自分の体を大切にしたい気持ちを持つ。

音楽科，芸術科（音楽）における教育のイメージ（4月26日版）

平成28年4月26日
教育課程部会
芸術ワーキンググループ
資料3-1

【高等学校】芸術科（音楽Ⅰ）

- ◎ 音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方に基づいて、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばすとともに生活や社会の中の音や音楽の働きや音楽文化についての理解を深める資質・能力を育成する。
- ① 音楽の文化的・歴史的背景や構造と、曲想との関わり及び音楽の多様性について理解することや、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けることができるようにする。
- ② 音楽の特徴を捉え、音楽表現を創意工夫して表現意図を創造できるようにすることや、幅広く音楽のよさや美しさを味わい、音楽の意味や価値を創造することができるようにする。
- ③ 音楽活動の喜びを味わい、我が国及び諸外国の様々な音楽と幅広く関わり、音や音楽を生活や社会に生かそうとして、生涯にわたり音楽を愛好する心情をもてるようにする。

【中学校】音楽科

- ◎ 表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方に基づいて、音楽に対する感性を豊かにし、音楽活動の基礎的な能力を伸ばすとともに生活や社会の中の音や音楽の働きや音楽文化について理解を深め、豊かな情操を養う資質・能力を育成する。
- ① 音楽の背景や構造と、曲想との関わり及び音楽の多様性について理解することや、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けることができるようにする。
- ② 音楽の特徴を捉え、音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさなどを味わって聴くことができるようにする。
- ③ 音楽活動の楽しさを体験することを通して、我が国の音楽文化に愛着をもつとともに諸外国の音楽文化の多様性に気付き、音楽を愛好する心情をもてるようにする。

【小学校】音楽科

- ◎ 表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方に基づいて、音楽に対する感性を育てるとともに、音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う資質・能力を育成する。
- ① 音楽的な特徴及び構造と、曲想との関わりについて理解することや、音楽表現をするための基礎的な技能を身に付けることができるようにする。
- ② 音楽の特徴を感じ取りながら、音楽表現を工夫することや、音楽のよさなどを見だし味わって聴くことができるようにする。
- ③ 様々な音楽に親しみ、音楽を愛好する心情をもてるようにする。

【幼児教育】（教育課程部会幼児教育部会において、本ワーキンググループでの議論を踏まえ、幼児期に育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の明確化について審議）

- ・身近な事象に好奇心や探究心を持って思いを巡らしながら積極的に関わり、物の性質や仕組み等に気付いたり、予想したり、工夫したりなどして多様な関わりを楽しむようになるとともに、友達と考えを思い合わせるなどして、新しい考えを生み出す喜びを感じながら、よりよいものにするようになる。
- ・生活の中で心動かす出来事に触れ、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりして、表現する意欲が高まるようになる。

図画工作科，美術科，芸術科（美術，工芸）における教育のイメージ （4月26日版）

平成28年4月26日
教育課程部会
芸術ワーキンググループ
資料3-2

【高等学校】芸術科（美術Ⅰ）

◎ 美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、対象・事象を造形的な幅広い視点で捉えて創造的に考え、感性を高め、創造的な表現及び鑑賞の能力を伸ばすとともに生活や社会の中の美術の働きや美術文化についての理解を深める資質・能力を育成する。

- ① 造形要素の働きについて、創造活動を通じた造形的な視点として理解することや、発想や構想したことを基に、意図に応じて表現方法を工夫して表す創造的な技能を身に付けることができるようにする。
- ② 主題を生成したり創造的に構想したりすることや、美術作品などの表現の工夫を捉えたり、美術文化を伝統的かつ創造的側面から幅広く捉えたりして、そのよさや美しさを感じ取り味わうなど、創造的に思考・判断できるようにする。
- ③ 主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組み、美術の創造活動の喜びを味わい、生活や社会の中の美術の働きや美術文化と幅広く関わり、生涯にわたり美術を愛好する心情をもてるようにする。

【高等学校】芸術科（工芸Ⅰ）

◎ 工芸の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、対象・事象を造形的な幅広い視点で捉えて創造的に考え、感性を高め、創造的な表現及び鑑賞の能力を伸ばすとともに生活や社会の中の工芸の働きや工芸の伝統と文化についての理解を深める資質・能力を育成する。

- ① 造形要素の働きについて、創造活動を通じた造形的な視点として理解することや、発想や構想したことを基に、意図に応じて吟味し創意工夫して制作する創造的な技能を身に付けることができるようにする。
- ② 心豊かに発想や構想することや、工芸作品などの表現の工夫を捉えたり、工芸の伝統と文化を創造的側面から幅広く捉えたりして、そのよさや美しさを感じ取り味わうなど、創造的に思考・判断できるようにする。
- ③ 主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組み、工芸の創造活動の喜びを味わい、生活や社会の中の工芸の働きや工芸の伝統と文化と幅広く関わり、生涯にわたり工芸を愛好する心情をもてるようにする。

【中学校】美術科

◎ 表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、対象・事象を造形的な視点で捉えて創造的に考え、感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばすとともに生活や社会の中の美術の働きや美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う資質・能力を育成する。

- ① 形や色彩などの特徴について、創造活動を通じた造形的な視点として理解したり、美術作品や文化遺産などについて造形的な特徴などから理解を深めたりすることや、発想や構想したことを基に、意図に応じて創意工夫して表す創造的な技能を身に付けることができるようにする。
- ② 豊かに発想や構想することや、造形的なよさや美しさを感じ取り味わったり、美術文化を伝統的かつ創造的な側面から捉えたりするなど、創造的に思考・判断できるようにする。
- ③ 主体的に表現及び鑑賞の活動に取り組み、美術の創造活動の喜びを味わい、生活や社会の中の美術の働きや美術文化と豊かに関わり、美術を愛好する心情をもてるようにする。

【小学校】図画工作科

◎ 表現及び鑑賞の活動を通して、形や色、イメージなどと関わり創造的に考え、感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う資質・能力を育成する。

- ① 形や色、材料や用具などについて理解することや、創造的な技能を身に付けることができるようにする。
- ② 豊かに発想や構想することや、作品などからよさや美しさなどを感じ取ることなど、創造的に思考・判断できるようにする。
- ③ 主体的に表現や鑑賞の活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうことや、生活の中の様々な造形に親しむことができるようにする。

【幼稚園】（教育課程部会幼児教育部会において、本ワーキンググループでの議論を踏まえ、幼児期に育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の明確化について審議）

- ・身近な事象に好奇心や探究心を持って思いを巡らしながら積極的に関わり、物の性質や仕組み等に気付いたり、予想したり、工夫したりなどして多様な関わりを楽しむようになるとともに、友達と考えを思い合わせるなどして、新しい考えを生み出す喜びを感じながら、よりよいものにするようになる。
- ・生活の中で心動かす出来事に触れ、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりして、表現する意欲が高まるようになる。

芸術科（書道）における教育のイメージ（4月26日版）

平成28年4月26日
教育課程部会
芸術ワーキンググループ
資料3-3

【高等学校】芸術科（書道Ⅰ）

◎ 書道の幅広い創造的活動を通して、書を構成する要素とその関連から生み出される働きの視点で書を捉え、感性を高め、書写能力の向上を図り、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばすとともに、生活や社会の中での文字と書の働きや、書の伝統と文化について書の特質に即して理解を深める資質・能力を育成する。

- ① 書の表現方法や形式、書表現の多様性などについて理解することや、意図に基づいた創造的な表現を構想し工夫して表すために、書の伝統に基づく効果的な書表現の技能を身に付けることができるようにする。
- ② 書のよさや美しさを感じ、自らの意図に基づいて構想し表現を工夫することや、書表現を創造的に味わったり、書の効用や作品の価値を考えたりして、書に対する見方や考え方を広げることができるようにする。
- ③ 書の創造的活動の喜びを味わい、表現と鑑賞の幅広い活動に主体的に取り組むとともに、文字や書の効用を生活や社会の中で生かし、書の伝統と文化に豊かに関わり、生涯にわたり書を愛好する心情をもてるようにする。

（国語科（必履修科目）

「現代の国語」（仮称）

・実社会・実生活に生かす内容
（履歴書等の社会的な文書や
通信文などにおいて文字を
効果的に書くことなど）

「言語文化」（仮称）

・多様な文字文化に関する内容
（古典の作品と書体等とのか
かわりをもつことなど）

【中学校】国語科（書写）

- ・文字を正しく整えて速く書くことができる。
- ・書写能力を社会生活に生かすとともに、文字文化について理解することができる。

【小学校】国語科（書写）

- ・文字を正しく整えて書くことができる。
- ・書写能力を日常生活や学習活動に生かすとともに、手書きの意義や文字の由来について理解することができる。

【幼児教育】（教育課程部会幼児教育部会において、本ワーキンググループでの議論を踏まえ、幼児期に育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の明確化について審議）

- ・身近な事象に好奇心や探究心を持って思いを巡らしながら積極的に関わり、物の性質や仕組み等に気付いたり、予想したり、工夫したりなどして多様な関わりを楽しむようになるとともに、友達と考えを思い合わせるなどして、新しい考えを生み出す喜びを感じながら、よりよいものにするようになる。
- ・生活や遊びの中で、数量などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、必要感に応じてこれらを活用するようになる。
- ・言葉を通して先生や友達と心を通わせ、絵本や物語などを親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付けるとともに、言葉による表現を楽しむようになる
- ・生活の中で心動かす出来事に触れ、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりして、表現する意欲が高まるようになる。

小・中・高等学校を通じた外国語教育のイメージ（案）

平成28年4月26日
教育課程部会
外国語ワーキンググループ
別添7

【高等学校】

- ◎外国語やその背景にある文化を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり、表現し、伝え合ったりすることができる資質・能力を育成する。
- ①外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解し、外国語の音声、語彙・表現、文法を、4技能（聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと）において実際のコミュニケーションの場面で運用できる技能を身に付ける。
 - ②場面・目的・状況等に応じて、幅広い話題について、情報や考えなどの概要・詳細・意図を的確に理解したり適切に表現し伝え合ったりするコミュニケーション能力を養う。
 - ③外国語の学習を通じて、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、自律的・主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。
➤ 目標を踏まえた具体的な指標形式の目標を提示

【中学校】

- ◎外国語やその背景にある文化を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、簡単な情報や意見交換ができる資質・能力を育成する。
- ①外国語を通じて、言語の働きや役割などを理解し、外国語の音声、語彙・表現、文法を、4技能（聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと）において実際のコミュニケーションの場面で運用できる技能を身に付ける。
 - ②具体的で身近な話題についての理解や表現、簡単な情報や意見交換ができるコミュニケーション能力を養う。
 - ③他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、コミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。
➤ 目標を踏まえた具体的な指標形式の目標を提示

【小学校高学年】

- ◎言語や文化の違いを知り、多様なものの見方や考え方の大切さに気付いて、相手意識をもって聞いたり話したりすることに加えて、読んだり書いたりする資質・能力を育成する。
- ①外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、言語の仕組み（音、単語、語順など）や、その背景にある文化を尊重するようにする。
 - ②身近で簡単なことについて外国語の基本的な表現に関わって聞くことや話すことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。
 - ③相手意識を持ってコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。
➤ 目標を踏まえた具体的な指標形式の目標を提示

【小学校中学年】

- ◎言語や文化の違いを知り、多様なものの見方や考え方の大切さに気付くとともに、相手意識を持って聞いたり話したりする資質・能力を育成する。
- ①外国語を用いた体験的なコミュニケーション活動を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語との音声の違い等に気付く。
 - ②外国語の音声等に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う
 - ③相手意識を持ってコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。
➤ 目標を踏まえた具体的な指標形式の目標を提示

高等学校基礎学力テスト
(仮称)



全国学力・学習状況調査



家庭科、技術・家庭科（家庭分野）における教育のイメージ（たたき台）

平成28年4月13日教育課程部会
家庭、技術・家庭ワーキンググループ
資料7-1

空間軸 時間軸

【高等学校】 共通教科

- ◇家庭科の見方や考え方を踏まえ、生活の中から問題を見出して課題を設定し、その解決を目指す実践的・体験的な学習活動を通して、以下の資質・能力を育成する。
- 生活を科学的に理解し、自立した生活者に必要な知識・技能を習得する。
- 生活の課題を解決するために、生活を科学的に探究し、生涯を見通して生活を創造する能力を育成する。
- 様々な年代の人とコミュニケーションを図り、主体的に地域社会に参画し、共に支え合う社会の実現に向けて家庭や地域の生活を創造しようとする実践的な態度を育成する。
- 「ホームプロジェクト」や「学校家庭クラブ活動」等、主体的に取り組む問題解決的な学習を充実する。
- ◎少子高齢化等の社会への変化や持続可能な社会の構築、食育の推進に対応し、子育て支援等の理解、高齢者の理解、生涯の生活設計、消費・環境に配慮したライフスタイルを確立するための意思決定、健康な食生活の実践、日本の生活文化の継承・創造等に関する学習を充実する。

社会

生涯を見通した生活

【中学校】

- ◇家庭分野の見方や考え方を踏まえ、生活の中から問題を見出して課題を設定し、その解決を目指す衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、以下の資質・能力を育成する。
- 家庭の機能について理解を深め、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識・技能を習得する。
- 生活の中から問題を見出して課題を設定し、その解決を目指して身に付けた知識・技能を活用し、これからの生活を展望して生活を工夫し創造する能力を育成する。
- 自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、地域の人々と協働し、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を育成する。
- 家庭や地域社会との連携を図り、「生活の課題と実践」等、主体的に取り組む問題解決的な学習を充実する。
- ◎少子高齢化等の社会への変化や持続可能な社会の構築、食育の推進に対応し、家庭の機能の理解や、幼児、高齢者との交流等、消費・環境に配慮したライフスタイルの確立の基礎、食事の役割や栄養・調理、日本の生活文化の継承等に関する学習を充実する。

地域

これからの生活

【小学校(高学年)】

- ◇家庭科の見方や考え方を踏まえ、生活の中から問題を見出して課題を設定し、その解決を目指す衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、以下の資質・能力を育成する。
- 日常生活に必要な基礎的・基本的な知識・技能を習得する。
- 生活の中から問題を見出して課題を設定し、その解決を目指して身に付けた知識・技能を活用し、生活をよりよくしようと工夫する能力を育成する。
- 家庭生活の大切さに気づき、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようとする実践的な態度を育成する。
- 家庭や地域との連携を図り、主体的に取り組む問題解決的な学習を充実する。
- ◎少子高齢化等の社会への変化や持続可能な社会の構築、食育の推進に対応し、家庭生活と家族の大切さ等、消費・環境に配慮した生活の仕方、食事の役割や栄養・調理の基礎、日本の生活文化の大切さに気付く学習を充実する。

家庭

現在・これまでの生活

【小学校(低・中学年)】

- 基本的な生活習慣や生活技能、身近な人々との接し方(家族や地域の様々な人々)、成長への喜び・成長を支えてくれた人々への感謝等(生活科)
- 健康によい生活についての理解(健康に過ごすための明るさの調節や換気などの生活環境)、体の発育・発達についての理解(体をよりよく発育・発達させるための調和のとれた食事)(体育科)
- 日常生活や学習への適応及び健康・安全(基本的な生活習慣の形成、食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成等)(特別活動)
- 節度・節制(基本的な生活習慣、節度ある生活)、家族愛、家庭生活の充実等(道徳)等

【幼児教育】(教育課程部会幼児教育部会において、本ワーキンググループでの議論を踏まえ、幼児期に育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の明確化について審議)

- 幼稚園生活の中で満足感や充実感を持って自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせながら取り組み、見通しを持って自ら健康で安全な生活を作り出していけるようになる。
- 家族を大切にしようとする気持ちを持ちつつ、いろいろな人と関わりながら、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に一層親しみを持つようになる。等

技術・家庭科（技術分野）における教育のイメージ（たたき台）

【高等学校】

（情報の共通必修科目）

- 情報や情報技術を問題の発見と解決に活用するための科学的な考え方を育てる
 - ①情報と情報技術及びこれらを活用して問題を発見・解決するための方法と情報社会についての理解と、情報技術を適切に活用するための技能を養う
 - ②問題の発見・解決に向けて情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う
 - ③情報を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与しようとする態度を養う
- （職業に関する各教科・科目）
- 各職業分野に関する知識と技術を習得させるとともに、各職業の社会的意義や役割を理解させる。
- 各職業分野に関する課題（求められる職業能力の高度化、持続可能な社会の構築、グローバル化・少子高齢化等への対応）を発見し、職業人としての倫理観をもって、合理的かつ創造的に解決する能力を育成する。
- 職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を育成する。

参考【中学校 技術・家庭科】

- 技術・家庭科の見方や考え方を踏まえて、生活の中から問題を見出して課題を設定し、その解決を目指す実践的・体験的な学習活動を通して、以下の資質・能力を育成する。
 - ・生活に必要な基礎的・基本的な知識・技能を習得させ、生活と技術との関わりについて理解を深める。
 - ・問題を見出して課題を設定し、その解決を目指して工夫し創造する能力を育成する。
 - ・生活を充実向上するために進んで実践しようとする態度を育成する。

【中学校】

- ◇技術分野の見方や考え方を踏まえ、生活や社会における技術に関わる問題を見出して課題を設定し、その解決を目指す実践的・体験的な学習活動を通して、以下の資質・能力を育成する。
- 生活や社会で利用されている技術についての基礎的・基本的な知識・技能を習得させ、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深める。
- 生活や社会における問題を、技術を選択、管理・運用、改良、応用するなどして、解決できる能力を育成する。
- よりよい生活や持続可能な社会を構築するために、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする態度を育成する。
- 生活や社会における問題を見出し課題を設定した上で、解決策が最適なものとなるよう設計・計画し、製作・制作・育成を行うとともに、解決結果・解決過程を評価する学習活動を充実する。
- ◎技術の高度化とそれに伴うグローバル化や、産業構造の転換等の社会の変化に対応し、ものづくりや日本の伝統的な技術、技術革新及びそれを担う職業・産業への関心、生産などの経済的主体等として求められる働くことの意義の理解や粘り強く物事を前に進める態度、情報活用能力、知的財産を創造・保護・活用していこうとする態度、使用者の安全に配慮して設計・製作したりするなどの倫理観、安全な生活や社会づくりへの貢献等に関する学習を充実する。

【小学校】

- 手や体全体の感覚等を働かせたり経験を活かしながら、表したいことに合わせて材料や用具を使い、表し方を工夫する（図画工作）
- 身近にある物を使ったりなどして、遊びや遊びに使う物を工夫してつくり、そのおもしろさに気づく（生活）
- ものづくりの活動を通して、自然の事物・現象の性質や働き、規則性についての実感を伴った理解を図る（理科）
- 道徳の内容との関連を踏まえた情報モラルに関する指導（道徳） 等

【幼児教育】（教育課程部会幼児教育部会において、本ワーキンググループでの議論を踏まえ、幼児期に育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の明確化について審議）

- 身近な事象に好奇心や探究心を持って思いを巡らしながら積極的に関わり、物の性質や仕組み等に気付いたり、予想したり、工夫したりなどして多様な関わりを楽しむようになるとともに、友達と考えを思い合わせるなどして、新しい考えを生み出す喜びを感じながら、よりよいものにするようになる。
- 自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、身近な事象に関心への関心が高まりつつ、自然への愛情や畏敬の念を持つようになる。

小・中・高等学校を通じた情報教育と高校学校情報科の位置付けのイメージ

社会との連携（外部が提供する学習プログラムとの連携や社会人講師との連携など）

高等学校卒業までに全ての生徒に育むべき情報に関わる資質・能力

個別の知識・技能

（何を知っているか、何ができるか）

- ・（思考や創造等に活用される基礎的な情報としての）教科等の学習を通じて身に付ける知識等
- ・情報を活用して問題を発見・解決したり考えを形成したりする過程や方法についての理解
- ・問題の発見・解決等の過程において活用される情報手段（コンピュータなど）の特性についての理解とその操作に関する技能
- ・アナログ情報とデジタル情報の違い（Webサイトと新聞や書籍等により得られる情報の早さや確かさの違い）など、情報の特性の理解
- ・コンピュータの構成や情報セキュリティなど、情報手段の仕組みの理解
- ・社会の情報化と情報が社会生活の中で果たしている役割や及ぼしている影響の理解
- ・情報に関する法・制度やマナーの意義についての理解

思考力・判断力・表現力等

（知っていること・できることをどう使うか）

- ・情報を活用して問題を発見・解決し新たな価値を創造したり、自らの考えの形成や人間関係の形成等を行ったりする能力
 - －目的に応じて必要な情報を収集・選択したり、複数の情報を基に判断したりする能力
 - －情報を活用して問題を発見し、解法を比較・選択し、他者とも協働したりしながら解決のための計画を立てて実行し、結果に基づき新たな問題を発見する等の能力
 - －相手の状況に応じて情報を的確に発信したり、発信者の意図を理解したり、考えを伝え合い発展させたりする能力など
- ・問題の発見・解決や考えの形成等の過程において情報手段を活用する能力

学びに向かう力、人間性等

（どのように社会・世界と関わりよりよい人生を送るか）

- ・情報を多角的・多面的に吟味しその価値を見極めていこうとする情意や態度等
- ・自らの情報活用を振り返り、評価し改善しようとする情意や態度等
- ・情報モラルや方法に対する責任について考え行動しようとする情意や態度等
- ・情報や情報技術を積極的かつ適切に活用して情報社会（情報の果たす役割が一層重要になっていく社会）に主体的に参画し、より望ましい社会を構築していこうとする情意や態度等

高等学校基礎学力テスト（仮称）



「情報科」

- ◎情報科の見方や考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通じて、以下の資質・能力を育てる
- ①情報と情報技術及びこれらを活用して問題を発見・解決するための知識と技能を習得させ、情報社会と人間との関わりについての理解を深める
- ②問題の発見・解決に向けて情報技術を適切かつ効果的に活用する力を育てる
- ③情報を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与しようとする態度を育てる

【高等学校】（各教科等）

◎情報社会への主体的な参画に向けて、問題を発見・解決したり自らの考えを形成したりする過程や、情報手段等についての知識と経験を、科学的な知として体系化していくようにするなど、発達段階に応じた資質・能力を高等学校教育の本質的な学びを深める中で身に付ける

（技術・家庭科「情報に関する技術」）

計測・制御やコンテンツに関するプログラミングなど、デジタル情報の活用と情報技術を中心的に扱う

【中学校】（各教科等）

◎情報を効果的に活用して問題を発見・解決したり、自らの考えを形成したりする経験や、その過程で情報手段を活用する経験を重ねつつ、抽象的な分析等も行えるようにするなど、発達段階に応じた資質・能力を中学校教育の本質的な学びを深める中で身に付ける

【小学校】（各教科等）

◎様々な問題の発見・解決の学習を経験しながら、そこに情報や情報手段が活用されていることや、身近な生活と社会の情報化との関係等を学び、情報や情報手段によさや課題があることに気付くとともに、情報手段の基本的な操作ができるようにするなど、発達段階に応じた資質・能力を小学校教育の本質的な学びを深める中で身に付ける

【幼稚園】

幼児教育において培われる基礎（言葉による伝え合い、豊かな感性と表現等）

高等学校教育を通じて育成すべき資質・能力に関する答申等

- 新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について（平成26年12月）〈抄〉

1. 我が国の未来を見据えた高大接続改革

(2) 高等学校教育、大学教育を通じて育むべき「生きる力」「確かな学力」の明確化

（略）高等学校教育、大学教育を通じて育むべき「生きる力」を、それを構成する「豊かな人間性」「健康・体力」「確かな学力」それぞれについて捉え直すと、以下のように考えることができる。

① 豊かな人間性

高等学校教育を通じて、国家及び社会の責任ある形成者として必要な教養と行動規範を身に付けること。大学においては、それを更に発展・向上させるとともに、国、地域社会、国際社会等においてそれぞれの立場で主体的に活動する力を鍛錬すること。

② 健康・体力

高等学校教育を通じて、社会で自立して活動するために必要な健康・体力を養うとともに、自己管理等の方法を身に付けること。大学においては、それを更に発展・向上させるとともに、社会的役割を果たすために必要な肉体的、精神的能力を鍛錬すること。

③ 確かな学力

学力の三要素を、社会で自立して活動していくために必要な力という観点から捉え直し、高等学校教育を通じて(i)これからの時代に社会で生きていくために必要な、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度（主体性・多様性・協働性）」を養うこと、(ii)その基盤となる「知識・技能を活用して、自ら課題を発見しその解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力」を育むこと、(iii)さらにその基礎となる「知識・技能」を習得させること。大学においては、それを更に発展・向上させるとともに、これらを総合した学力を鍛錬すること。

○ 初等中等教育分科会高等学校教育部会 審議まとめ ～高校教育の質の確保・向上に向けて～（平成26年6月）〈抄〉

第2章 高校教育の質の確保・向上に関する課題・基本的考え方

1. 「共通性の確保」と「多様化への対応」

- 本部会においては、これらの指摘も踏まえ、高校教育の共通性を確保するため、全ての生徒が共通に身に付ける資質・能力について、「コア」と位置付けた上で、その範囲・要素と評価の在り方について整理した。

2. 全ての生徒が共通に身に付けるべき資質・能力の育成〈共通性の確保〉

(2) 全ての生徒が共通に身に付けるべき資質・能力「コア」

② 「コア」を構成する資質・能力

- 変化の激しい社会にあって、働く人々に求められる能力は高度化しており、身に付けた専門知識や技能がすぐに陳腐化したり、新たな知識・技能の習得を次々に迫られたりするなど、求められる対応のスピードも速くなっている。
- 一方、求められる知識・技能の変化が激しいからこそ、誰にとっても、生涯にわたって学び続けることの必要性がますます大きくなり、そのための基盤となる力を身に付けることが、改めて重要となっている。さらに、どのような職業においても共通に求められる汎用的能力の基礎となる力や、市民社会の形成者として求められる能力等は、近い将来職業人となり、また、全員が主権者となる高校生が確実に身に付けることが必要である。
- 高等学校は、進学や就職といった生徒の進路にかかわらず、中学校卒業後のほぼ全ての者が、社会で生きていくために必要となる力を共通して身に付けるとともに、自立に向けた準備期間を提供することのできる最後の教育機関となる。
- 社会で自立し、社会に参画・貢献していく人材の育成を推進していく観点からは、「確かな学力」を構成する「学力の三要素」とともに、特に、次の力を、「コア」を構成する資質・能力の重要な柱として重視していくべきと考える。
- ・ 社会・職業への円滑な移行に必要な力
 - ・ 市民性（市民社会に関する知識理解、社会の一員として参画し貢献する意識など）
- さらに、「コア」を構成する資質・能力としては、これらの柱を更に具体化したもの等として、以下のような資質・能力を挙げることができる。
- ・ 言語を活用して批判的に考える力、分かりやすく説明する力、議論する力
 - ・ 新たな価値観や考え方を創り出す力やものづくり力などを含めた「創造力」
 - ・ 多様な他者の考えや立場を理解する力や、相手の話を聴く力、コミュニケーション力などを含めた「人間関係形成力」
 - ・ 自ら課題に挑戦していく力などを含めた「主体的行動力」
 - ・ 今後の自分自身の可能性を含めて自らを肯定的に理解するとともに、自らの思考や感情を律し、今後の成長のために進んで学ぼうとする「自己理解・自己管理能力」
 - ・ 生徒が将来の進路を決定するために必要な「勤労観・職業観」、労働者としての権利・義務の理解など社会的・職業的自立の上での基礎的・基本的な知識・技能
 - ・ 社会の発展に寄与する意識・態度などの「公共心」
 - ・ 社会奉仕の精神、他者への思いやり
 - ・ 健康の保持増進のための実践力

《参考》 「コア」を構成する資質・能力（イメージ）

コアを構成する資質・能力（イメージ）

生徒が高等学校教育を通じて身に付けるべきもの

確かな学力

ア 基礎的・基本的な知識・技能

説明する力、議論する力

イ 基礎的・基本的な知識・技能
を活用して課題を解決する力
(思考力・判断力・表現力等)

批判的、合理的に考える力

「創造力、構想力」

ウ 主体的に学習に取り組む
意欲・態度

社会・職業への円滑
な移行に必要な力

市民性

「自己理解・自己管理能力」

「主体的行動力」

「職業観・勤労観」

「人間関係形成力」

● 社会の発展に

寄与する態度を養うために

社会的責任を担い得る倫理的能力

必要な「公共心」や「倫理観」

社会の一員として参画し貢献する意欲・態度

● 社会奉仕の精神、他者への思いやり

● 健康の保持増進のための実践力

豊かな心

健やかな体

A 筆記試験や実技試験等による客観的な評価の対象としやすいもの

B A以外のもの